

# 平成30年度習志野市こどもの発達支援に関するモニタリング調査（概要版）

## （1）調査の目的

習志野市では、発達支援施策の推進を目的として、平成27年度に基礎的情報を収集分析するため「習志野市こどもの発達支援に関する基礎調査（以下『前回調査』という。）」を実施した。平成30年度は同じ調査の繰り返しにより現状や取組みの評価など調査結果を比較し、施策の実効性を持続的に改善することを目指すものとして「習志野市こどもの発達支援に関するモニタリング調査（以下『本調査』という。）」を実施した。

## （2）調査の概要

本調査では発達に課題がある子どもの保護者、提供者などに郵送と手渡しを併用して調査票を届け、郵送またはウェブ送信により回答を回収した。配布数1,124名、回収数572票、回収率50.8%であった。

## （3）調査回答者の特徴

図1：回答者の年齢

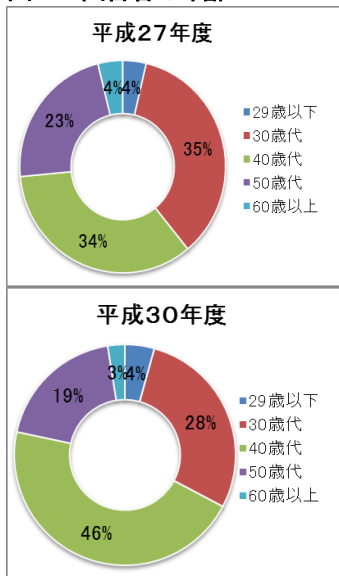


図2：発達に課題や心配がある子どもとの関わり方

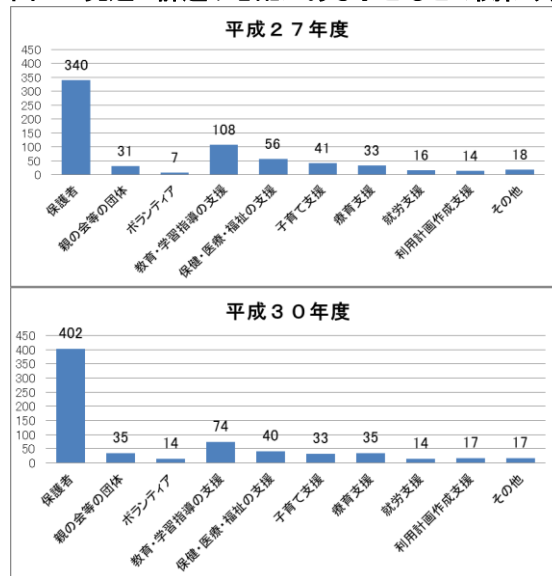


図3：子どもの学年

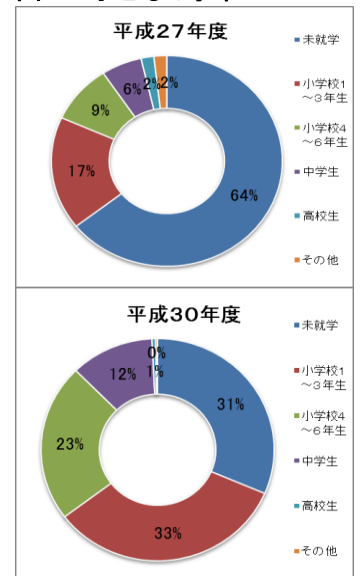
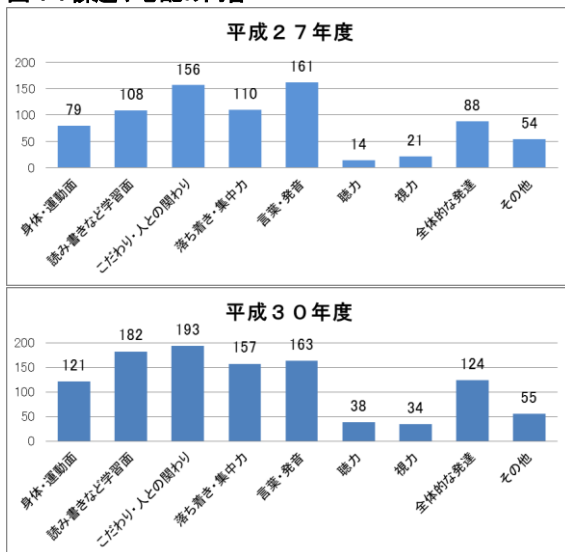


図4：課題や心配の内容



本調査の回答者の男女比は、男性91人16.2%、女性471人83.8%であった。年齢構成は30歳代（161人28.6%）と40歳代（257人45.6%）が回答者の約7割を占める（図1）。

回答者の多くが発達に課題や心配がある子どもの保護者（402人70.2%）であった（図2複数選択可）。

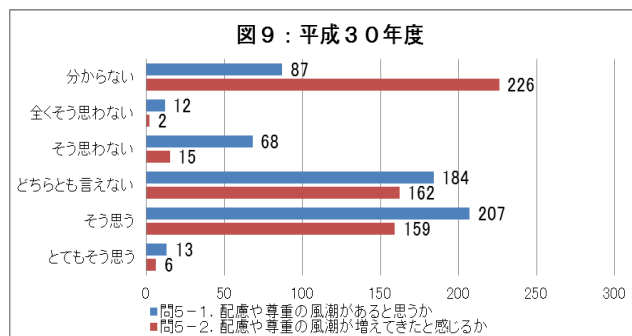
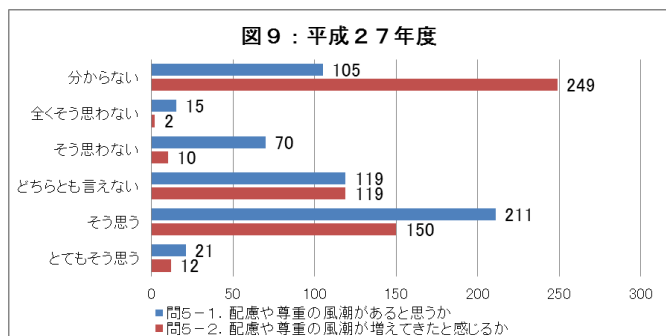
回答者が保護者である場合、前回調査では子どもの学年は未就学児（215人64.4%）が多く（図3）、課題や心配としてはこだわり・人との関わりや言葉など対人関係面の内容が最も多かった（図4複数選択可）。本調査では小学生から高校生までの就学児童（合計265人67.8%）が多く、読み書きなど学習面や落ち着き・集中力など行動面の内容が特に多くなっている。

## （4）調査結果

問3から問9までの各設問では、発達に課題がある子どもが置かれている生活環境や社会状況について「現状についての評価」と「過去から現在までの変化（望ましい方向に改善しているか）」を尋ねる2つの問がセットになっている。問3は偏見や誤解について、問4は差別や排除（いじめなど）についてである。

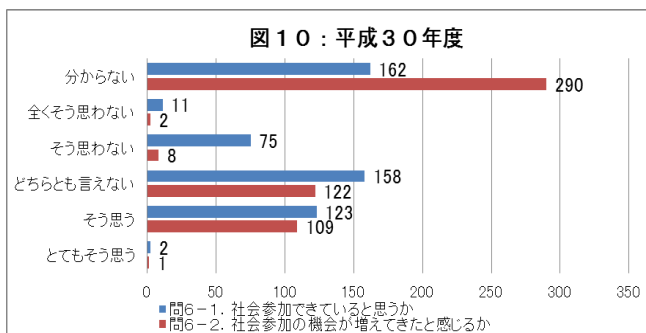
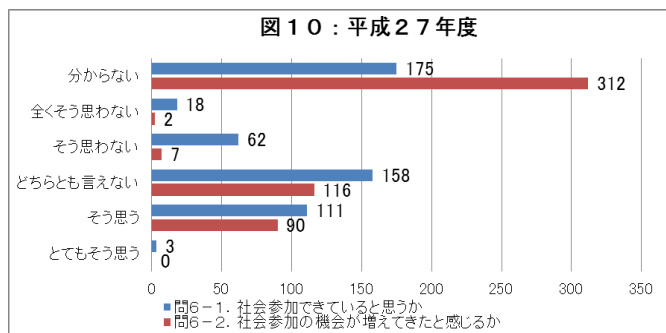
**【問5】配慮や尊重の風潮（図9）**

配慮や尊重の風潮があると思うかについては、両調査とも肯定的な回答が約4割で、否定的な回答よりもはるかに多い。またその風潮が増えてきたと感じるかは「分からない」が半数近いが、次いで、増えてきたという肯定的回答が否定的回答を上回っている。但し、本調査では「どちらとも言えない」が前回調査より多くなっていることが顕著である。



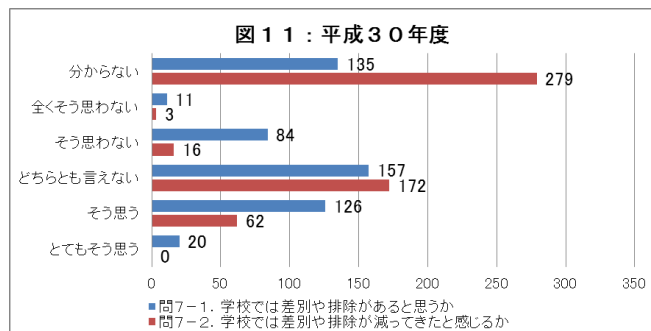
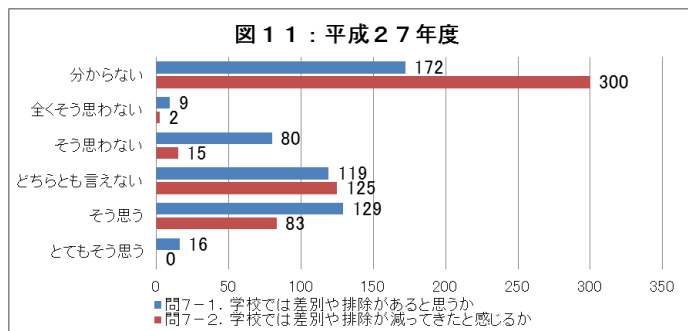
**【問6】社会参加（図10）**

社会参加できていると思うかについても、肯定的回答が否定的回答よりも多いとはいえ、両調査とも2割程度にとどまる。社会参加の機会が増えてきたと感じるかは、「分からない」と「どちらとも言えない（以前と変わらない）」が大多数を占めるが、肯定的な回答が否定的な回答よりも多い。



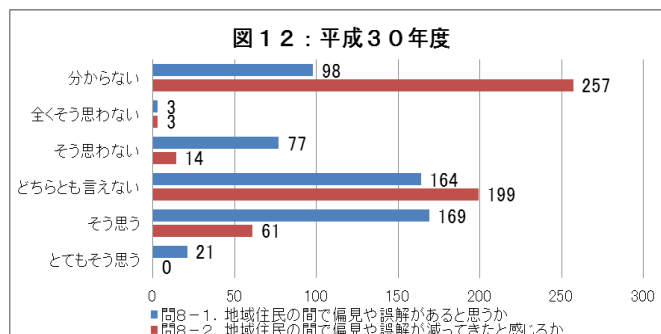
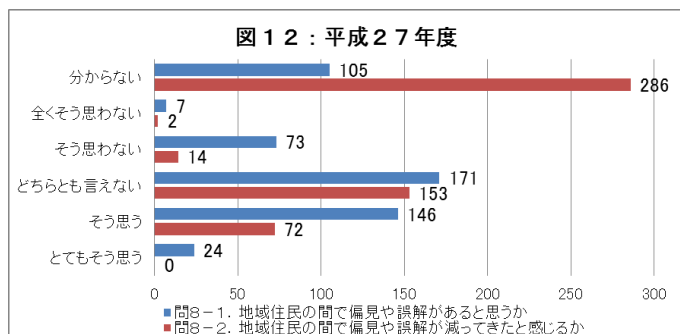
**【問7】学校での差別や排除（図11）**

差別や排除があると思うかについては、両調査とも「分からない」が突出して多く、「そう思う・とてもそう思う」が「そう思わない・全くそう思わない」を上回っている。差別や排除が減ってきたと感じるかは、前回と同じく「分からない」が最も多く、また、肯定的な回答が否定的な回答を上回っている。



**【問8】地域住民の偏見や誤解（図12）**

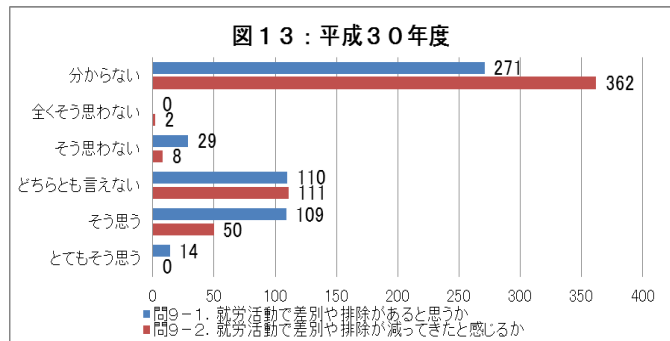
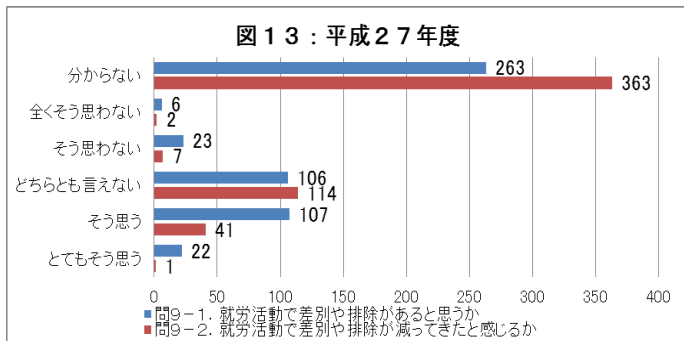
偏見や誤解があると思うかについては「そう思う・とてもそう思う（190人35.7%）」が否定的な回答（80人15.0%）を上回っている。偏見や誤解が減ってきたと感じるかは、前回調査と同様に「分からない」と「どちらとも言えない（以



前と変わらない)」が多数を占めている。

【問9】就労活動における差別や排除（図13）

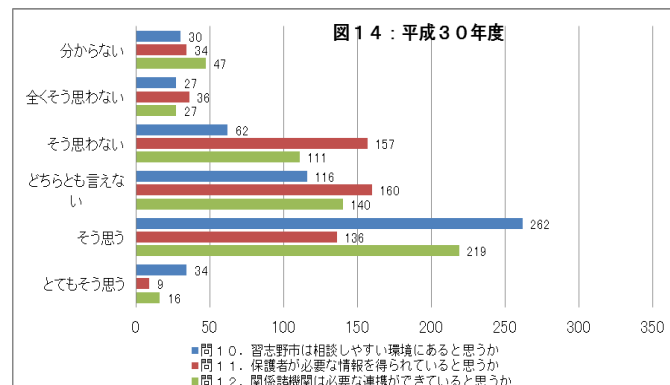
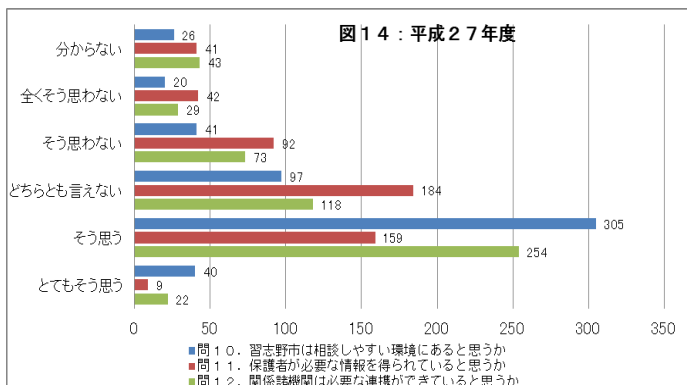
前回調査と同様の傾向であり、差別や排除があると思うかについては、「どちらとも言えない」を除くと差別や排除があることを認める回答が多く、否定的な回答をはるかに上回っている。また、そのような差別や排除が減ってきたと感じるかについても、「分からない」と「どちらとも言えない」が大多数を占める結果となった。



【問10～問12】行政支援（図14）

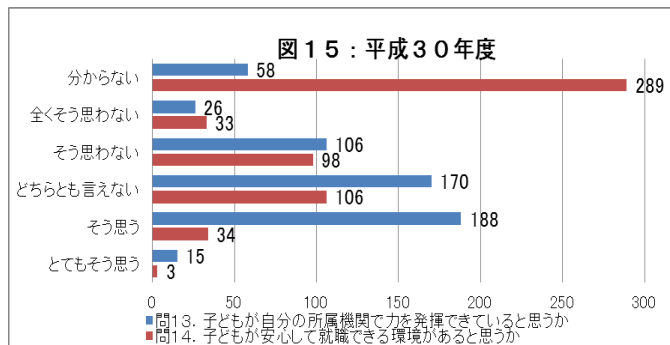
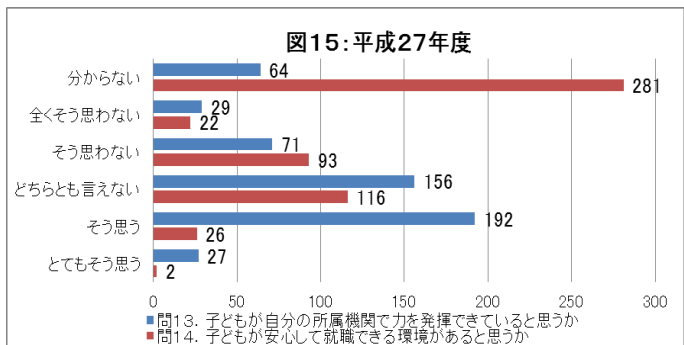
問10から問17までの各設問では発達に課題がある子どもに関する行政支援や子どもが置かれている生活環境と地域社会の現状について尋ねている。

行政支援に関して、相談しやすい環境にあると思うか（問10）については両調査とも肯定的な回答が約6割と、否定的な回答を大きく上回るが、保護者が必要な情報を得られていると思うか（問11）は肯定的な回答は3割程度に留まり、本調査では否定的な回答が肯定的な回答を上回るという結果が生じている。発達支援に関わる諸機関の連携（問12）については、傾向としては前回と同様であるが、肯定的な回答が約1割減じ、否定的な回答が微増となっている。



【問13・問14】力を発揮できる環境（図15）

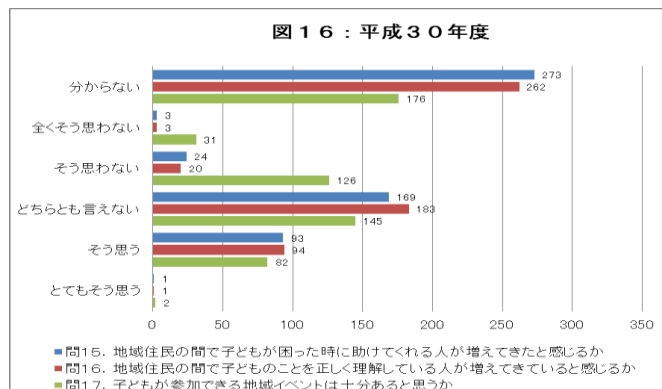
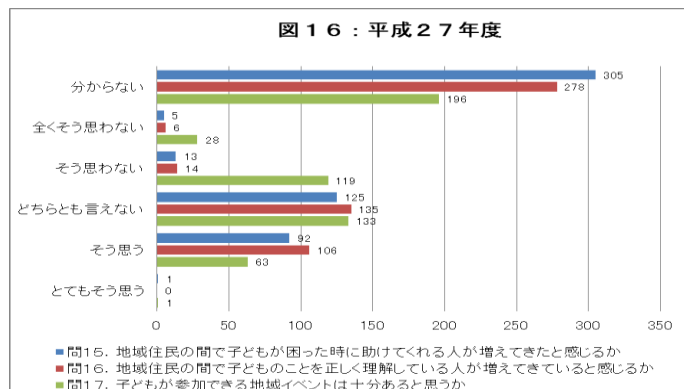
子どもの生活環境に関して、それぞれの所属先で自分の持てる力を発揮できていると思うか（問13）について前回と同様に肯定的な回答が約4割、否定的な意見が約2割である。一方で、安心して就職できる環境があると思うか（問14）は両調査で肯定的な回答は1割弱程度であり、問13で肯定的な回答が4割程度あるにも関わらず、これらの所属機関を出たあとの社会状況は厳しいものであるという認識が明確に表れている。



【問15～問17】地域社会の状況（図16）

地域社会の状況に関して、地域住民の間で子どもが困ったときに助けてくれる人が増えてきていると感じるか（問15）に対する肯定的な回答は両調査とも2割に満たない。子どものことを正しく理解している人が増えてきていると感

じるか（問16）も肯定的な回答は2割程度にとどまる。最後に、子どもたちが参加できる地域のイベントは十分あると思うか（問17）を尋ねると、肯定的な回答が前回と比較して僅かに増加して2割弱だが、否定的な回答が多い状況であることは同様となっている。



### 【平成30年度「保護者」グループと「それ以外」グループの平均値・平均値の差】

22の設問について「保護者」と「それ以外」の2グループに分け、2グループの回答の平均値とその差を計算して、回答傾向の違いを分析した結果である。平均値3.0は中間の評価となり、数値がそれよりも大きいほど「より好ましくない状況」、小さいほど「より好ましい状況」であるという評価となる。

「より好ましくない状況」という評価になっている項目は就労や就職（問9、問14）である。また、懸念が大きい項目は同様であるが、「保護者」グループの方は「それ以外」のグループよりも平均値が大きい傾向であり、現状をより好ましくないと見ていることが分かる。

設問番号	設問内容	平成27年度			平成30年度		
		保護者の平均値	それ以外の平均値	平均値の差	保護者の平均値	それ以外の平均値	平均値の差
問3-1re	発達に課題がある子どもに対する偏見や誤解がある [ない]	2.81	2.67	0.14	2.84	2.90	-0.06
問3-2	発達に課題がある子どもに対する偏見や誤解が減ってきた	2.77	2.32	0.44	2.83	2.31	0.53
問4-1re	発達に課題がある子どもに対する差別や排除（いじめなど）がある [ない]	3.24	2.84	0.40	3.18	3.06	0.13
問4-2	発達に課題がある子どもに対する差別や排除（いじめなど）が減ってきた	2.98	2.37	0.62	3.01	2.52	0.49
問5-1	発達に課題がある子どもに対する配慮や尊重の風潮がある	2.86	2.37	0.49	2.77	2.59	0.18
問5-2	発達に課題がある子どもに対する配慮や尊重の風潮が増えてきた	2.69	2.24	0.45	2.66	2.38	0.28
問6-1	発達に課題がある子どもが社会参加できている	3.12	2.73	0.38	3.03	2.75	0.28
問6-2	発達に課題がある子どもの社会参加の機会が増えてきた	2.90	2.42	0.48	2.83	2.29	0.54
問7-1re	学校では、発達に課題がある子どもに対する差別や排除（いじめなど）がある [ない]	3.36	2.95	0.41	3.17	3.10	0.08
問7-2	学校では、発達に課題がある子どもに対する差別や排除（いじめなど）が減ってきた	2.95	2.50	0.45	3.02	2.56	0.46
問8-1re	地域住民の間で、発達に課題がある子どもに対する偏見や誤解がある [ない]	3.32	3.15	0.18	3.35	3.18	0.17
問8-2	地域住民の間で、発達に課題がある子どもに対する偏見や誤解が減ってきた	2.98	2.56	0.42	3.03	2.56	0.47
問9-1re	就労活動では、発達に課題がある子どもに対する差別や排除（いじめなど）がある [ない]	3.70	3.14	0.56	3.59	3.17	0.42
問9-2	就労活動では、発達に課題がある子どもに対する差別や排除（いじめなど）が減ってきた	3.05	2.59	0.46	3.08	2.47	0.61
問10	発達に課題がある子どもを持つ保護者にとって、習志野市は、困りごとを相談しやすい環境がある	2.52	2.18	0.35	2.74	2.18	0.56
問11	発達に課題がある子どもを持つ保護者にとって、必要な情報が十分得られている	3.19	2.65	0.54	3.37	2.62	0.76
問12	発達支援にかかわる関係者間には、適切な支援や情報提供を行うために必要な連携ができてきている	2.83	2.40	0.44	3.02	2.41	0.61
問13	発達に課題がある子どもが各所属先(保育所、幼稚園、学校など)で持てる力を発揮できている	2.84	2.62	0.22	2.98	2.65	0.34
問14	発達に課題がある子どもが安心して就職できる環境がある	3.69	3.13	0.55	3.70	3.10	0.60
問15	地域住民の間で、発達に課題がある子どもが困ったときに助けてくれる人が増えてきている	2.96	2.45	0.50	2.90	2.55	0.35
問16	地域住民の間で、発達に課題がある子どものことを正しく理解している人が増えてきている	2.93	2.45	0.48	2.94	2.48	0.46
問17	発達に課題がある子どもが参加できる地域のイベントは十分ある	3.56	3.03	0.54	3.40	2.98	0.42

(注1) 否定的表現の質問文には「リバーズ（逆転）コーディング」を行い、尺度の方向性を同じにする処理を行っている。これにより値が小さいほど「より好ましい状況」、値が大きいほど「より好ましくない状況」という評価となっている。リバーズコーディングした否定的表現の質問文には末尾に「ない」を付けている。

(注2) 平均値の差が0.5以上である場合は赤字で示している。

(注3) 平均値が「どちらとも言えない」の3.0を超えた場合は（網掛け）で示している。

